

## 第3回滋賀県高校生ビブリオバトル大会結果報告概要

滋賀県教育委員会では、平成25年度から高校生の読書率向上プロジェクト「ビブリオバトル」の普及を図るとともに、社会全体で子ども読書活動を推進していく観点から、「第3回滋賀県高校生ビブリオバトル大会」を実施しました。

大会では、高校生によるビブリオバトルと一般の方にも取り組んでもらえる「Let's ビブリオバトル」を実施し、高校生、大学生、学校・図書館関係者、読書ボランティア、PTA等の社会教育団体など、全体では150名の御参加をいただき、幅広い参加者による大会となりました。また、終了後には、大会に参加された方々で交流会を開催し、地域における子どもと本をつなぐ人たちの間に、世代や所属団体を越えた交流を図ることができました。

なお本事業については、滋賀県書店商業組合から協賛を、立命館大学びわこ・くさつキャンパスより協力、ビブリオバトル普及委員会より後援を、それぞれいただきました。

**【日 時】** 平成27年11月1日（日）11：00～17：00 **\*参加者150名**

**【会 場】** コラボしが21

### 【内 容】

#### (1) 開会式

**【11：00～11：15 大会議室】**

開会にあたり、主催者である滋賀県教育委員会事務局生涯学習課長の挨拶の後、全体の日程説明と予選会に出場する高校生バトラーをグループ別に紹介しました。



#### (2) 高校生ビブリオバトル大会（予選）

**【11：30～12：30 各会議室】**

12校23名の高校生バトラーが出場し、5グループに分かれてビブリオバトルを行いました。各会場で熱いトークが繰り広げられ、それぞれ1名のチャンプ本紹介者が決定、決勝に進出しました。



(3) Let's ビブリオバトル～みんなでやってみよう～

【13:10～14:00 各会議室】

世代や所属団体の異なるメンバー構成でビブリオバトルを実際に体験していただき、人と本、人と人の交流を図りました。

当日飛び入り参加された一般参加者の方や決勝に進めなかった高校生7名の再挑戦を含め、各々お気に入りの本を1冊持ち寄り、参加者21名が4グループに分かれてビブリオバトルを行いました。オーディエンス（聴衆）のみの方も含めると、57名の御参加をいただき、本の楽しさや魅力を紹介し合うことで、グループで活発な質疑が行われ、本を介して人と人をつなぎ、幅広い年齢層のネットワークの形成を図ることができました。



(4) 高校生ビブリオバトル大会（決勝）

【14:10～15:10 大会議室】

予選を勝ち抜いた5名の高校生バトルが、決勝ステージで、最終決戦を行い、大接戦の末、県立伊吹高等学校の岩島利希さんが紹介された『笑うな』（筒井康隆）がチャンプ本に選ばれました。平成28年1月10日（日）東京のよみうり大手町ホールで行われる全国大会への出場権を獲得されました。

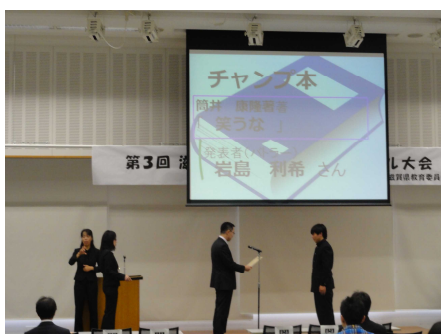


(5) 閉会式

【15:20～15:30 大会議室】

はじめに、チャンプ本紹介者が滋賀県教育委員会教育長（代理）から表彰されました。

その後、参加者の一層の読書意欲を喚起することを目的として、県立膳所高等学校の栗山晏奈さんが参加者へ向けて、「ビブリオバトルの活動を通して、知らない本に出会うことができ、とてもワクワクした。読書の魅力は人生に深みを与えてくれ、心を広く大きなものにしてくれる。」とメッセージを発表しました。



## (6) 交流会

【15:40～16:30 大会議室】

大会終了後は、さらに交流を深めることを目的とした交流会を開催しました。

交流会には、高校生21名を含む39名が参加し、最初に全体でアイスブレイクを行った後、3つのグループに分かれて、「最近読んでいる本」「本を選ぶときのポイント」「おすすめ本」などのテーマを巡って、それぞれの思いを語り合いました。会話が進むにつれ、話題も広がり、読書活動に関する活発な交流の場となりました。



## 【参加者の感想】（抜粋） ※原文のまま、記載してあります。

### <高校生ビブリオバトル大会について>

- ・様々な本を高校生が工夫して魅力を伝えようとする姿から、改めて本そのものが持つ力を感じたように思います。
- ・それぞれ紹介する本に対しての熱意が伝わってきて、圧倒されました。そして、紹介する項目もまとめられていて、「こんな本を読みたいな」という気持ちになりました。オーディエンスに語りかける形で紹介していく方法が印象に残りました。
- ・その本に対する熱意がよく伝わってきました。読みたいと思う作品ばかりでした。ビブリオバトルのためにしっかりと練習してきたのがよく伝わりました。
- ・若人が本を読まなくなると言われる中、しっかりと読んで言葉に出来ると言うことは素晴らしい事。これからも続けて本を読む若者を育てて下さい。全国高校大会の周知も必要では。
- ・現在、滋賀県の高校生の中にもこんなに読書に精通している人がおられるんだと感銘を受けました。素晴らしいと思いました。
- ・高校生が本に関心をもつことは良いことだと思う。読んだ本をどこが良かったか、改めて考えられるととても良い企画だと思う。もっと宣伝して広めたらよいのに。
- ・決勝のみ見学しました。バトラーが何度も読んだ本の紹介が多く、本当に好きで、人にも読んでほしいんだという思いが伝わってきました。発表の仕方に人をひきつける方もいて、様々な興味深かったです。

### <Let's ビブリオバトルについて>

- ・他の参加者のプレゼンから学ぶことがたくさんあった。様々な年代の方で交流できたのが良かった。
- ・予選大会を見てからだったので、とても緊張しました。5分間で伝えたいことを伝える大変さを改めて知りました。話すスピードや表情、雰囲気によって伝わり方も違うことがわかりました。
- ・各公共図書館でもビブリオバトルを開催するよう協力を要請され、身近な所から、ビブリオバトルの周知と参加を増やされて行くのが良いのではないのでしょうか。高校生ビブリオ大会も広まっていくのではと思います。
- ・様々な種類の本に出会えるとても良い機会だったと思う。
- ・たった5分間なのにとっても長く感じました。準備不足だと感じました。また、興味深い本をたくさん紹

介していただいたので、今後読んでいきたいです。

- ・わきあいあいとした雰囲気でした。「ビブリオバトルは難しいものではない」と思ってもらえたらいいなあと思います。
- ・予選に出場した生徒たちが楽しそうにまた、参加していたので良かったです。

## 【本事業における成果と課題】 ○成果 ▲課題

- ビブリオバトルの大会や実演を通して、初めての方にも既知の方にも理解が進み、実際にビブリオバトルをやってみようという意欲を参加者に喚起することができた。
- 読書ボランティア団体や社会教育関係者、学校・図書館関係者、大学生など幅広い年代層の参加があり、子ども読書推進活動に携わる方々に横のつながりの形成を図ることができた。
- 開・閉会式を行うことで、参加者に対して大会の趣旨を伝え、参加者への読書意欲を喚起することができた。特に、閉会式では、「高校生による読書メッセージ」を発表する場を設けることで、読書率低下が著しい高校生へ呼びかけをすることができた。
- ▲大会参加者をいかに増やしていくかが大きな課題。ビブリオの実践は各高校で少しずつ広がりを見せているが、大会への参加は、特定の学校から広がりが無い。
- ▲今後も県内全域へさらに広報に力を入れていく必要がある。